

川内原発すぐ停止に

「熊本の会」九電に抗議・県に要請

余震が続く熊本県内。労働組合や市民団体、個人でつくる「原発ゼロ・自然エネルギー」への転換を求める熊本の本の会（原発ゼロ・熊本の会）は6日、鹿児島県にある川内原発をいまずぐ停止するよう

求めて、九州電力熊本支社へ抗議しました。熊本県知事にも要請しました。

熊本地震を引き起こした断層の延長線上にある川内原発。九電支社前での行動には約30人が参加。母親らと参

加した山都町の久枝しずくさん（21）は「地震が起きたときも原発が気になりました。せめて余震が落ち着くまで止めてほしい」。

抗議文を携えた、同会の樫本（うめもと）光男事務局長（県労働議長）は「万が一、原発事故が起きれば取り返しがつかない」と指摘。九電の広報課職員

は抗議文を受け取り、「安全性に配慮して、しっかりと説明する」と語りました。

同会は県庁を訪れ、九電が市民に誠実に説明責任を果たすよう指導せよ、地震の解明ができるまで川内原発の稼働を止めよと要請。記者会見で、同会の代表世話人の中島照八郎さん（熊本県立大学

名誉教授）は、川内原発再稼働の前提であった「免震重要棟」の建設を九電が昨年12月に突然撤回したと批判。

「熊本地震は誰にも予測できなかった。原発はいますぐ停止すべき」と強調しました。九電支社前の行動には、日本共産党の山本伸裕熊本県議が参加しました。